

お 礼 状

このたびは辺野古新基地反対のたたかいへの連帯・激励のカンパをお送りいただき誠にありがとうございます。

10月31日、沖縄県の歴史と文化の象徴である首里城が焼失してしまいました。ウチナーンチュは、みんな悲しみと落胆にくれていましたが、デニー知事を先頭に県民が一丸となって再建へ動き出しています。県民の持つ「不屈性」がここでも発揮され、首里城は近い将来、県民の手によって必ず再建されることは間違いありません。

さて、新基地建設の現場では国・防衛局は浅瀬の辺野古側沿岸で、県の行政指導をも無視し、違法な埋め立て工事を強行しています。しかし、大浦湾側では軟弱地盤があるため地盤改良工事が求められます。デニー知事がこれを許可するはずはなく、国側は八方ふさがりに直面しているのが実態です。

仮にこのまま工事を強行しても、今後20年にも及ぶ工事期間と3兆円とも言われる莫大な予算が必要となります。しかし、いまだに政府・防衛局は完成までの工期も予算も提示できていません。このような公共工事などありえません。

政府はいまだに「危険な普天間基地の一日も早い移設のための唯一の解決が辺野古移設だ」との思考停止状態が続いています。それほど危険な普天間基地を引き続きさらに20年以上も放置し、周辺の住民や子どもたちを危険にさらすのか、という県民からの怒りが一層高まっています。

辺野古新基地を中止に追い込む一番の近道は、安倍自公政権を代えることです。参院選後の埼玉県知事選挙で激戦を制し、岩手県知事選挙で野党共同候補が圧勝したことは、今後の総選挙での野党共闘発展に大きな希望と展望を切り開いています

私たちは、引き続き現場のたたかいと結んで来年6月の県議選で与党を圧勝させ、全国のみなさんの連帯に応え、首里城再建も辺野古新基地中止も「オール沖縄」が一丸となっていっそう奮闘する決意です。

皆さんからのご支援は私たちのたたかいへの大きな激励となります。ありがとうございます。これからも引き続きよろしく願いいたします。

2019年11月

新基地建設反対名護共同センター

代表 具志堅 徹

事務局長 早坂 義郎